



「押しても駄目なら、 押してみろ！」

ニューヨーク時代、命かけの奮戦を見せた岸信行。米国の雑誌にも掲載された。

名もなき空手3

命を求めて 岸信行 写真・文 不動武

◆ビッグ・ジャックの夢

ニューヨークの本間道場が俺の所で合宿するのも2014年の夏で三回目になる。

今回は随分と想い出深い道場生が参加してくれた。アニー・サンダレスクさん。あの「ビッグ・ジャック」、劇面じゃ、「クレイジー・ジャック」(編集部注・劇面の登場人物はジャック・サンダレス)と言われた今は亡きジャック・サンダレスさんの奥さんだ。

彼女は俺の40年前のニューヨークの弟子。俺の道場で黒帯を取った。彼女は俺より二歳年上で、俺は姉のように思っている。縁というのは不思議なもので、彼女は今、ニューヨークの本間道場で稽古をしている。

当時は俺も極真会館で、彼女が昇段審査合格の後、本部から極真会館公認の黒帯が届くまで仮の黒帯を俺が渡したんだけれども、俺が渡した黒帯を絞めつけて、もう黒というよりは灰色になった帯を持って来て俺に見せてくれた。

ニューヨークの本間道場の雰囲気は、ほとんど20年前のニューヨークの岸道場の雰囲気だという。本間の道場生達の方が格段に知的で品が良いと思う(笑)。

彼女はもう68歳なんだけれども、体は柔らかいし、内廻し蹴りは速い。腕立て伏せなんか連続で何十回もやるし、恐れ入るね。

若い頃はジャーナリストとして活躍して、あの世界的に有名な雑誌の「ヴォーグ」や、ニューヨークの「ヴェイレッジボイス」にも書いていた。実はその「ヴォーグ」に俺が載ったのが縁で、俺の道場に入門したのが俺の妻だ。

彼女は大変な才女、しばらく忙しくてペンを置いていたが今でも一流の文筆家だ。

ジャックさんが亡くなられて4年ぐら

2014年夏、ニューヨークから岸空手道場のある奥羽山脈に空手修行の旅人達がやってきた。彼らがこの奥羽山脈の奥地で空手に求めたものは「命」。空手求道の象徴、「岸空手山の道場」が新規増設。大山倍達総裁の盟友「ビッグ・ジャック」こと、故ジャック・サンダレスの夫人、アニー・サンダレスク女史他、ニューヨーク岸道場時代の門下生も参加した。山形県新庄市は江戸の大飢饉から200年続く「新庄祭」の真っ最中。ジャック・サンダレスク氏が拉致連行されたソ連から三千キ

ロの壮絶なエスケイプで求めたもの、大都市ニューヨークの闇に苦しむ若者達が求めたものも「命」だった。それはまた空手の求めるもの。新たな己の命を求めて。それはまた本人すら見なかった命。山形県にある「幻想の森」には不可思議な二本一体の樹木が存在する。桜の巨木と杉の巨木が根幹で入り乱れ一体の樹木となっている。大自然は時折、不可思議な力を発揮する。空手の生み出すもの、岸信行が悩みの闇に佇む者に示したのも、それは初めての今。岸信行の言葉を今そのままに示す。

いになるんだけど、ジャックさんの気持ちも汲んでアニーさんがジャックの形見を、活躍したニューヨークと故郷のルーマニアと運命の地ウクライナのドンバスや俺のもとに納めたいということで来た。俺の妻も「ジャックさんが来てく

れたみたいで嬉しい」と泣いていたよ。俺達夫婦にとってジャック・サンダレスクさんはかけがえのない人だからね。ジャックさんは映画の「空手バカ一代」でマス大山の強敵として登場人物のモデルになったりはしていたけれど、実際はもっと大変な人物だった。強敵でなく親友であり盟友。劇中で「大山館長の後援を申し出た富豪の女性」が、乱暴者のクレイジー・ジャックが道場運営に介入しようとしているのを知って怯えて逃げてしまった」というシーンを日本で見せられて、彼女はゲラゲラ笑っていたね(笑)。

創作だからね。

大山倍達館長が一番最初にプロレスの興行に参加して試合をする形でアメリカへ行って、二回目は試し割りなどの演武をやる形で行って、その次に、「マス大山空手」そのものをアメリカに普及させるために渡米した時に、半年間大山館長の面倒を見て普及活動を助け、以降ずっと大山館長を支えたのがこのサンダレスク夫妻だった。だから、アメリカでは「極真」の名より「マス大山空手」の名の方が通りが良かった。二

ユーヨークを制するものは世界を制する。言わば、サンダレスク夫妻の存在無くして極真空手は世界に広まらなかったと思う。

ジャックさんは若い頃、プロのヘビー級ボクサーで十何試合かしてね、対戦相手をつっぱしから全員KOしてしまった凄腕の怪物ボクサーだった。大山館長の著書である「What is Karate?」、あの本をジャックさんが読んでね。大山館長が渡米するのを待っていた。ジャックさんが大山館長に挑戦したり、ジャックさんが「私がレンガを割れたら何段くれる?」と言ったっていうような描写があるらしいけど、ジャックさんのような心が繊細で真摯な人物がそんなことを言うなんてあり得ない。創作だね。ジャックさんはそんな無礼な真似はしない。また、ジャックさんが強い香港拳道家と戦って負けたなんて話もちろんない。俺は、ジャックさんが誰と戦っても負けたのを見たことはない。

ジャックさんは、ウイリー・ウイリアムズがアントニオ猪木と戦う時に、ニューヨークにやって来た「鬼の黒崎」と異名を取る黒崎健時先生が「ジャックはすごいな、迫力が違う」と言っていたが「はい、すごかった。黒崎先生はオランダでジョン・ブルミンとかカレン・パッチとかすごい人を見ていたんだけど

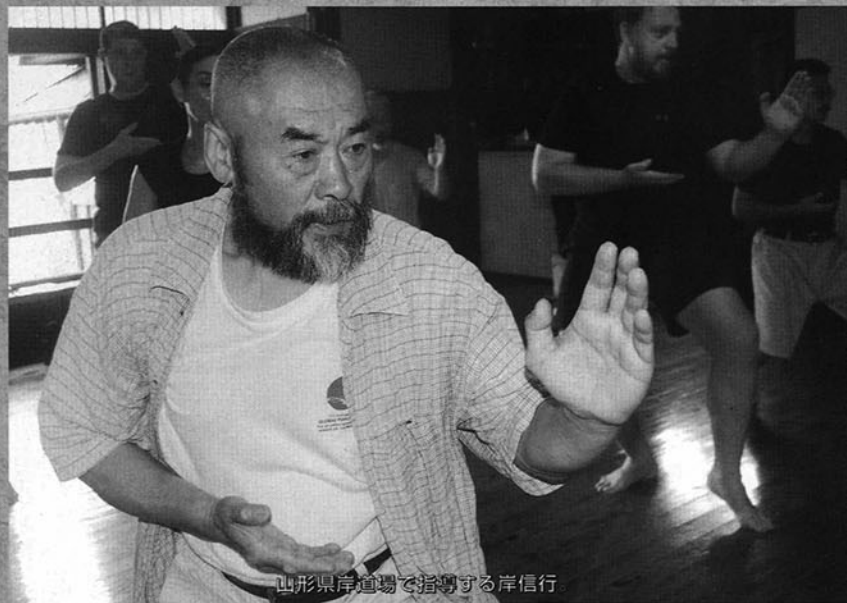
も、その黒崎先生がたまげるくらいすごかった。

ジャックさんがレンガを手刀で叩いたらレンガが粉々になったのも本当。ジャックさんがビール瓶を斬ったのは見たことないけれども、自然石割りとかそういう大山館長の得意な試し割りはほとんどできた。

もし、ジャックさんが格闘家として本気になっていたらとんでもない選手になっていたと思う。俺はジャックさんを20年以上見ている。すごい男だよ。

また、今の何も知らない連中が大山館長のことをなんだかんだと言うけれども、その当時のプロ格闘家達を一撃で失神させるジャックさんが大山館長と組手して、「手加減されても、マス大山の突

羽黒山山頂にて記念撮影。



山形県岸道場で指導する岸信行

ジャックさんはルーマニアのブラショフって町で16歳の高校生の時に朝の通学途中でソ連軍に拉致された。ジャックさんのお父さんや妹も拉致されたらしい。拉致された時に一時的に集められた故郷のどこかでお父さんと目が合ったのが、この世での別れになった。「お父さんはそれまで見たことのない悲しい目をしていた」と言っていたね。連れていかれたのはウクライナ最大の炭坑のあるドンバスだ。若い労働力が目当てだったので、お父さんは結局拉致されなかった。

そして連行されて行く時に、いつもは立派な名士達がなすすべもなく泣いている。列車で3週間かけ連行される最中には神様に「助けて下さい」という祈りを唱える声ばかりが聞こえる。男女を問わず同じ過酷な強制労働、そして極寒地での疲労に毎日毎日、同郷の人達は亡くなって行く。ウクライナの凍りつく炭鉱での重労働。不衛生極まりない収容所。脱走者は酷い拷問の上で銃殺刑。そして、一緒に収容された妹さんは知らない間に収容所で命を落としていた。いや殺されていた。それが「労働者の天国」と言われたソ連の実態。力なく自由を奪われることの怖さをジャックさんは思い知った。

ジャックさん自身も、収容所でほとんど遊び半分にソ連兵に銃で胸の上を撃ち抜かれた。背中から心臓の上を貫通して胸に抜けた銃創も俺は見たよ。

そしてドンバスの炭坑で大怪我をして、足がぐちゃぐちゃになって現地で「足を切断するか」という騒ぎになったらしい。俺の前でジャックさんが足を出すともうその時の名残で血管が表に浮き出していた。

2年間の炭坑での強制労働の後、脱走。ドンバスからポーランドを越えて昔の西

ドイツまで3000kmの道のりを乗り越え、死線をいくつもくぐったんだ。「九十九死に一生以下」のエスケイプ。故郷のルーマニアに帰れたかったが、すでにソ連の手が伸びて共産化していたから帰れなかった。帰ればドンバスに逆戻りか死刑。彼が母親に会えたのが30年後のことになる。だから、「ソ連」だの、「共産主義」だのって言葉が出ると、ジャックさんは真つ赤になって怒っていた。

如何に自由や平和が得難いものかというのをジャックさんは痛切に感じていた。

政治家も学者も学生も理屈でへらへらと、「基本的人権だ」「人権蹂躪だ」というけれども、それは平和な時の理屈であってね。一度そういう事態に陥ると、自由かどうかというのは力で決まるんだ。「人間には元々こういう権利があって、生まれながらに当然に保障されるべきで」と能書き言っても絵空事だよ。理屈じゃないんだ。自由っていうのは厳しいものなんだよ。



参加者が道場で空手拳を学ぶ。

きの強さに心臓が止まるかと思った。目がかすんだ」という。また、そういう肉体的な強さよりも更にマス大山の精神的な強さ大きさにジャックさんは敬意を払っていた。大山館長は偉大だよ。俺のニューヨークの弟子の中でも強かったフランクという大山館長の親友と一緒によく道場で「カンチヨー！カンチヨー！」

って話していたよ。大好きだったんだね。大山館長のことが。漢にして漢を知るんだ。大山倍達館長が敷いてくれた空手のレールの上を時刻通りに走る電車のグリーン席に乗って駅弁食いながら、大山館長の悪口言うような甘えた奴らに大山館長のすこさは理解できないよ。



単身行かたは一人で作り上げた新しい山の道場。

ルーマニアでの拉致事件はジャックさんにとつては随分辛いことだから、俺もわざわざ聞くような真似はしなかつたけれども、ある程度は話してくれた。そういう状況で大山館長と同じく「力なき正義は無能なり」を痛感したんだと思うね。

◆ルーマニアにて

俺も30年前の1985年にジャックさんに故郷のルーマニアに連れて行ってもらった。アニーさんと三人でね。その頃はルーマニア自体が、チャウシエスク大統領の独裁国家、緊張状態の社会だった。ジャックさんと俺達がルーマニアのホテルの部屋に入るとね、夜中の12時になると、現地の人達が何人もジャックさんが来たという情報を掴んで部屋を訪ねて来るんだ。「アメリカに亡命したい」ということ。そういう人達が部屋に入ると、彼らは部屋中の水道の栓を全部全開にしてザッと水を流す。俺が「何をやってるんだ？」って聞くと、彼らは「この部屋に盗聴器があるはずだ」って言っていた。水の音で盗聴を難しくするわけだね。ジャックさんももう亡くなったし、チャウシエスク大統領も銃殺されたから言うけど、ジャックさんは随分と体を張って亡命の手助けをした。ジャックさんはニューヨークどころか、東欧にも頗る利く実力者でかつ当時世界最強の国アメリカの市民権を持っている。奥さんのアニーさんは一流ジャーナリスト。余計に当時のルーマニア政府も手を出しにくかったと思う。その時にね、俺がルーマニアの大統領親衛隊長の家に遊びに行ったり、空手を指導したりしたこと、ルーマニアの大統領親衛隊顧問への就任の話が俺の所へ来た。だけれども、俺は断った。そして、大山館長に、「一國の大統領の親衛隊の顧問!! こんな名譽な職務をどうして勝手に断った

あー」
って、エライ剣幕で怒られたけれどもね、独裁者の家来は嫌だし、そういうった職務についた人達は、結局、大統領が銃殺された時に消されたと思うよ。
ジャックさんは想像を絶する体験を超えて生きてきたから、腹の据わり具合が違った。彼はニューヨークのジャズバーのオーナーでもあり、そこにいろいろの派閥のマフィアの連中が集まって来てはいたけれども、ジャックさんが彼らのパランスを取り、マフィアと言えども、ジャックさんの前では勝手は許されなかった。マフィア達がジャックさんを尊敬して認めていた。だから、ジャックさんによって当時のニューヨークのマス大山の道場が守られた部分というのはある。
俺がニューヨークで住んだアパートはもともと黄色人種が入れてもらえたこと

のないアパートだった。俺が住めたのはジャックさんがオーナーに一声かけてくれたから。
ジャックさんは大山館長からルーマニアの人々、そして俺に至るまでいろいろな人の盾になり守ってくれた。俺も親には「空手なんて飯の食えないことすんなー」ってずっと反対されていたけど、ジャックさんは貧しい村で育った俺の両親をフロリダの別荘に招待してくれた。当時の日本の、ましてや俺の両親にとつたら電宮城に来たみたいにもんだ。拉致された日を最後に会えなくなったジャックさんの父親。ジャックさんは、本当は自分自身の父親にそうしたかったに違いない。ジャックさんはね、自分の壮絶な悲しみの経験を他人の幸せに変えられる男だったんだ。それは大山館長もそう。自分

岸先生が私とジャックのことを家族だと思ひ、私を姉だと言ってくれますけど、私も全く同じ気持ちです。岸先生は私にとつて生涯の空手の師であり弟。
ジャックもルーマニアで本当に厳格な父親に育てられましたし、岸先生のお父さんも相当厳しかったようですし、お互い厳しい環境を生き抜いてきて、そんなところでも馬が合ったようですね。
ジャックは日本の漫画ではまるでポパイのブルートみたいに描かれていましたね(爆笑)。
ジャックとマス大山は相手はしました、真剣勝負はしていません。する必要がなかったですから。マス大山がアメリカに来た時に、ジャックはマス大山と目が合った瞬間に「この人物は

アニー・サンダレスクさん談話

(山形県岸道場にて)

自分と同じ精神と心意気を持った人物だ」と確信したようです。
ジャックは強い男で、決して臆病な人間ではないけれども、時々悪夢にうなされて、私が彼を起こすと「ああ、ここはもうソ連じゃなかったのか……」と。
時々、ドンバスでの辛い記憶がフラッシュバックしてあの巨体を揺るがして激しく苦しむこともありました。それほど辛い思いをしては、ジャックは「こんな思いを他の人にさせたくない」と思っただけでしょう。
ジャックはルーマニアで拉致され、祖国を離れてアメリカへ来た。当時のアメリカはもうすでに病んでいました。「アメリカの若者全てに対して勇氣と元氣と夢を与えたい」と願ったジャックの気持ちは、世界の若者を空手

が辛いから他人に不幸を願うような男ではない。
「とんでもなく強くて、とんでもなく弱くて、とんでもなく優しい男」。それがジャックさんだね。日本ではあまり紹介されなかったけど、もし本当のジャックさんを皆が知ったら、皆ジャックさんを大好きになったと思う。
死線をくぐる大変な苦勞して、そして大きい人間になった。俺が出会った大山倍達館長も、澤井健一先生もそういう人だね。
ジャックさんは誰かに評価されようとしないでそうしたのではないけれども、ジャックさんがもつと日本で評価されて良い人物であることは確かだね。俺はジャックさんの魂を迎えて、この山形でジャックさんと永遠に空手をやるんだ。魂の空手をね。

で応援したいマス大山の夢と正に重なり、広がったと思います。
まあ、面白い話では、マス大山はアルコールが苦手だったんですけど、一度、ある人がフルーツカクテルのようなお酒を彼に渡したら、マス大山は「ユースだと思っただけで飲んじゃったんです。その内、アルコールが回ってきて、マス大山が、真っ赤になって「ウー、トウーマッチ、ウイスキー」って唸っていたことがありましたよ(笑)。ジャックはそんなことしません。
マス大山は偉大な方でした。マス大山が71歳で亡くなった時、「あんなに強い男が……」とジャックは淋しそうでしたね。
そうそう、ニューヨークでは岸先生が私達夫婦に「馳走して下さった。お蕎麦、美味しかったんですよ。

◆山の道場新設



修行の緩急、厳しい稽古の合間に見せる岸信行の一瞬のユーモア。

俺が山の道場「カラテ・ヴィレッジ」の構想を描いたのがニューヨークだった。世界のどこかに「カラテ・ヴィレッジ」を創るという目標を立てた。その頃は、アップステイト・ニューヨークあたりと頭の中では考えていたんだけど、まあそれが、俺のお袋が体を壊したこと、俺が山形に戻り、奥羽山脈の丁（ひのと）山地という地に道場を構えた。そして今までに二つばかり、そう大きくはないけれども泊まれる建物は建ててあった。別に俺がさぼった訳ではないけれども、そこからそう進んでいるわけでもなかった。俺自身が稽古したり、何人か泊る分には十分だったからな。

ただけれども、そこにニューヨークの本間雅彦が「自分の道場生達を指導して欲しい」と言っちゃってやるようになった。俺も、本間がただロマンチックに「山の中で稽古してみたい」というのだった

でね。それを、師弟が空手にすがって真摯に生きる道を開こうとしている。肉体の病気でなくとも人の人生は駄目になる。「何とか私は生きたい」と彼らは言っている。それに俺が応えられないんだったら、俺は何のために何十年も空手をやって来たのか、俺の生きてきた空手が意味のあるものかどうかもわからなくなるわけよ。

これは、俺にとつて一つの空手の修行であってね。試されることでもある。

そこで俺は「よし、全身で受け入れてやろう」と決めて本間道場の合宿を毎年行っている。ここに今、現在の俺の道があるのかも知れない。

別に恒例行事にするつもりもない。必要がなければ誰も来なくて良いんだ。病院が流行らないからと言って患者や病名を作るのはおかしい。だけれども、彼らは来るし、山形に来た人間は、より空手に確かな信念と熱意を持ってやめなという。借金までして合宿に参加して日本の土産物ひとつ買えないでいる若者達もいる。そして、俺がちよつともましな空手を教えてやるより他に国に持って帰るものがないんじゃない。

去年は合宿中に雨が降って、ブルーシートで屋根を作って、雨露を凌いで皆で寝た。

「格闘技ブーム」とかじゃなくて生きるためにここまで真剣になっているアメリカ人達を見て、俺は愛おしくなったのよ。彼らが求めているものは「空手そのもの」「命そのもの」。俺は彼らを見ていて、せめて次は全員を屋根の下で眠らせてやりたいと思った。皆、空手の子供だ。

本間達の第三回の合宿に向けて、20

14年の雪解けを待って、新しい道場の建築に取りかかった。5月11日に着工。山の道場の敷地内にある太い立ち木を柱にしてね。

同級生がやっている材木店で規格外になって、自分の店では使わない「廃材」を譲ってもらってね。窓も取り付け、渡り廊下もつけた。8月26日に本間達を受け入れることができた。

この建物は二階建てというか、今は高床式になっているが、一階に風呂や台所も作るうと思っている。

二十人ぐらい入って中で跳ねても全然大丈夫なように頑丈に作った。これで結果として、だいぶ俺のカラテ・ヴィレッジの構想が大きく前へ進んだ。

そしたら驚いたことに俺に負担を掛けたことになると言っちゃって、俺が知らない



左が本間雅彦、中央が望月忠。望月氏は若き日、米国で岸信行の激しい真陶を受ける

ちにニューヨークで本間がカラテ・ウィ
レージを推進するパーティを開いて、そ
こに本間道場から、岸道場から、柔道の
達人の松村洋一郎先生から、何十人も集
まって寄付金を集めて持ってきた。俺が
全く知らない人まで募金してくれた。第
一には本間の大きな信用、そして第二に
はニューヨークの人々が空手で生きている力
を得ることを真剣に望んでいるというこ
とだと思ふね。もう頼るところは業でも
娯楽でもないんだ。

本間には「俺は自分の楽しみでやって
いるんだから気にするな!」と言ってあ
ったんだけれどもね。俺は俺の苦勞を僥

んでくれて有難いけど、このお金は俺の
慰勞にあてるんじゃない、将来に向けて、
山の道場、カラテ・ウィレージの建設の
ために使わせて頂くこととした。このお
金をうまく使えばもっと大勢の修行者を
迎えてやれる。

俺はもう少し敷地を拡げて、工芸品を
作る工房も作って溪流の傍に水車小屋も
作って空手の源流を求めて来る修行者達
が生活できるようにと考えている。やつ
ぱり「夢」というものは、自分一人の憧
れや願望じゃなく、皆の幸せに繋がって
こそ前に進むものだ、と俺は本間に教え
られた気がしたね。

ニューヨーク岸道場出身者達(談話)

本間雅彦

今回の合宿も大成功でした。毎回、
違った刺激を頂いています。岸先生に
は朝から晩まで体を張っていただいて、
空手の技から指導方法、稽古方法から、
道場生との接し方、男としての生き方
まで教えて頂き、あまりに内容が豊富
でお腹一杯ですが、これから消化吸収
していききたいと思います。

今回は、自分達を迎え入れるために
新しい山の道場までご自身の手で建設
して下さいました。あの道場を見ると
岸先生の思想哲学が窺えます。空手と
同じく、自然をそのまま大黒柱とした
重厚な造り。設計図も無く、何にも捉
われない自由な発想の建築、見過ごさ
れがちな弱者の如き廃材を最大限に強
者として役立てる個性の活かし方。あ
の道場はただの建物ではなく、そのま
ま岸先生の空手なのだと思います。無
力な人間、無能な人間と呼ばれる人々
も舞台が違えば千両役者になる、とい
うことを岸先生に教わりました。

あの山の道場でキャンドルを囲んだ
夜は、忘れられない思い出となりました。
奥羽山脈の深夜、月明かりを帯び

た新しい道場は私には神々しく見えま
した。

岸先生ほど、人のために笑ったり怒
ったり泣いたりする人は世界にもそう
いないと思います。自分達が先生の町
の道場についてすぐ、先生が「ここに
参加者はいても客は一人もない」と
言われた通り、空手観光ではなく、終
始、空手修行でしたが、参加者全員、
心身に空手のお土産をたくさん頂いて、
ニューヨークに戻りました

望月忠

僕はもう35年ぐら前にイギリスの
ロックの音楽に憧れて、でも、イギリ
スではなくニューヨークに渡っていた
んですね。日本ではモテてましたがニ
ューヨークではもう、もろに人種差別
されて思いきりふてくされてました。
街の日本料理店で働かせてもらって
たんですが、ある日、その店に若き日
の岸信行先生が現れた。そしたら、い
ろいろなカウンターでそれぞれ飲んで
いたアメリカ人達が、皆ビール瓶を持
って、「ワァー!」って喜んで岸先生の
方に集まってしまっただけです。

◆押しでも駄目なら押ししてみろ!

極論すれば、正しい空手は「我流」な
んだ。基本っていうのは人間の体に備わ
った自然な動き。この基本を理解する必
要はある。だから、俺は基本は徹底的に
稽古するし、それは大山館長から教わっ
たもので間違いないと思う。基本が人間
の体に備わった自然である以上、たくさ
んいろいろな基本があるわけない。だか
ら簡単に変えてはいけない。

自分の流派のオリジナリティを出そう
と思って基本を変えるというのは正しい
とは思わない。例えばね、正拳中段突き

僕は「何なんだ、この人?」と思
いました。こっちは差別されているのに。

それで岸先生が僕に、「おい、お前!
何でお前、日本人なのに髪の毛オレン
ジ色なんだ! 馬鹿だな、お前の黒
い髪、低い鼻、短い足、これが良いん
じゃないかよ!」と言われました(笑)。
レスリングの強い選手が岸先生に戦
いを挑んで、逆に岸先生に空手の投げ
で投げ倒されたこともありましたね。
僕は岸道場に入門したんですが、当時
の岸道場、すごかったですね。ジャッ
ク・サンダレスクさんもいて、ジャッ
クさんが腕立て伏せするとクジラが腕
立て伏せしているみたいで、横にいる
と、体を下ろす度にすごい風が吹き出
るといいますよ。また、フランクさ
んというすごい巨漢もいて、大変な道
場でした。

僕達日本人道場生が外国人道場生と
の相手で少しでも下がったら、岸先生
が「お前、日本人のくせに何で下がった
あ!」

と怒鳴って、竹刀で背中を叩き回す。
日本人道場生が腹に効かされて下を
向く、岸先生が、

の引き拳について参加者から聞かれた。
俺は地面から草を引き抜く腕の捻り方だ
と教えた。いろいろと考えなくても、人
間誰でも雑草を地面から引き抜く時には
同じ形になる。それが基本ということ。
その応用、実際の使用方法において、人
間の個体は皆違いうから違う空手になる。
空手は本来、ほとんど全てが一人稽古。
それをどいつもこいつも同じにして、
「先生と同じでない駄目!」となると
当然、道場生はつまらなくなる。「楽し
い!」ってことは、言い換えれば各人の個
性に応じているってことだね。
「空手を習う」と言う。いろいろな習い

「お前、日本人のくせに何で下向いた
あ!」

と怒鳴って、竹刀で背中を叩き回す。
お陰で僕らの背中は腫れ上がった傷だ
らけです。当時のガールフレンドは
「貴方は前の相手と戦っていたのに背中
が血だらけなのは何故!」と泣いてい
ました(笑)。岸先生が檜で出来た滅茶
苦茶固い「折れないバット」の試し割
りに挑戦した時、バットの持ち手を後
ろから支えていたのが僕で、目の前で
岸先生の足が直角に折れたのを見ました。
すると「足が折れようが、バットが
折れようが、試し割り成功だ!」と。

岸先生は「護身に相手一対こちら一
なんてフェアプレイがあるか。まず相
手三人が基本。二人だったら今日は少
ないね」と思えなくちゃ駄目だ!とも
おっしゃっていました。岸道場は治安
の良くなかったあの街で、学ぶ価値の
ある空手だったと思います。

岸先生は世界の真ん中で英語も標準
語も通り越して山形弁で暴れていたん
です。岸先生が命を張っていたとい
道場でした。岸先生の恐ろしさはまだ
日本では知られていないと思います。



岸信行と古夢の弟子、石川良一(東京都武蔵野区、元東京都稲城市長)

事はその習い事の姿に生徒が形を合わせるのがほとんどだろうけれども、空手は空手の方がその人に合わせなくちゃまずいんだ。先生が例えば華麗な上段廻し蹴りの名手であっても、各人それぞれ得意とするところ、合う技というのは違う。そしてその個性を活かした方が正しいし楽しい。空手というものはやることによつて、「自分の個性に目覚めて、自己を確立していく」ってことは間違いないと思うね。

「あー、俺はやっぱり俺なんだな。俺で良かった！」で良いんだ。武道というのは強くなる道ではなく、「自分を極める道」、「自分を学ぶ道」、「自分を極める道」ということ。「武道家」から「自分家」になるということ。自分らしいことが結局、自分の実力、魅力を発揮することになる。そこに自分の強さもある。

人生も同じこと。誠実であったり、最低限の生活規則ということはあるけれども、後は、みんな我流の人生だ。「武道」から「自分道」に行くんだ。利己主義というのではなくてね。

皆、それぞれ自分に生まれついて、そこから自分の思うように生きていくんだ。別段、人に迷惑かけなきゃそれで良いんだ。「どんな職業につきたい」というのから、「男として生きたい女」からその逆からいろいろあるだろうけど、自分が心底そうしたいなら、それで良いじゃないか。「金持ちになるよりアルバイトして時間持ちになって一生ギター弾き倒して暮らしたい」、それも良い。「私は日本人だけど、アメリカ人より英語をうまく使って世界の人と話したい」、それも大変立派な夢。

ぼやぼやしないでとっととやれ。何をアクセルとブレーキを踏み間違えしているんだ！ お前を苦しめているのは他の誰でもない。お前の「心のブレーキ」だ。何が「他の人が理解してくれないのの前へ進めません」だ？ そんなんなら、お前の人生は一生、自宅のガレージの中だ。

人生、お前の生きたい生き方において、「押しでも駄目なら引いてみる」「じゃないんだ、「押しでも駄目なら押してみな！」だ！」「他人の許可待ち」「他人の承認待ち」の人生なんて面白くないだろ。楽になりたかったら、余計なことまで他人の目を気にするな。お前、他人の

目線ごときに負けるつもりか？ 時間の無駄遣いは命の無駄遣いだ！ それが悔しかったら、さつさとやれ！

◆空手は生きるためにある

空手は生きるためにあるね。より元気に発刺と生きるためにある。

生きることを阻害するような教えは空手ではない。成長するために耐えて努力することはある。だけれども、これは節制であつて、決して禁欲ではないね。「空手家は女と付き合うべきではないが、ひがんで言っているんだろ？」

俺が「仙人」だなんだ言われてるから、俺のこと「金が嫌いだ」と思っているんだろ？

そんなの大間違いだ。「金」っていうのは「衣食住の引き換え券」みたいなものだ。ただな、身分不相応の金を持つたり、求め過ぎると身を誤るから、結果、そういう俺を不幸にするお金は要らないだけの話だ。砂糖がいくら甘くても摂り過ぎれば虫歯にもなるし糖尿病にもなる。俺は甘い物は嫌いではないけれども、金が菌になっての人生の虫歯や糖尿病はごめん。

空手をやるのに動機の純、不純なんて関係ない。例え、気に食わぬ奴をぶちめすつもりで始めても、正しい道へ導いてくれるのが空手というもんだ。

一般社会の人が空手をやることで「異性にモテモテになる」「仕事や勉強のできる人間になる」、或いは「喧嘩の強い人間になる」、それはおおいに結構なことだね。ただ身を持ち崩さない節度が大事なだけだね。

「受験勉強があるので空手やめなさい」じゃなしにね、世の中のお母さん方に「空手をやると体力も自信もついて頭の働きが良くなって、しっかりお勉強できるよ

うになるらしいわよ。第一、いじめに遭わないし安心ね」と言ってもらえるようになって欲しいよ。

空手家というものは、その実、「クリエーター」だ、即ち「芸術家」だ。技術者や職人ではなく、「人の心を動かす人」ということ。そして、ただ法律や規則や道徳を守って生きていくだけの人間であつてもだめだ。新しい今という時に即応して対処できる人間にならなくては駄目だ。

また、ある意味「精神家」として、道場に集まる人達の生きる力を伸ばすということが大事だ。空手家は道場生に何かを授けるといふほどは偉くない。ただ、その道場生が持つて生まれてきて、行くところとしていく方向に伸びる手伝いをする。そういうことが大事だろうね。そのためには先生も相当の苦勞をしなくちゃいけない。



合宿を見守る岸信行。ただ一人も「空手の子」を不幸には出来ない



山の道場での稽古後、都会の間か体から去り、大自然の伊吹が命を駆け巡る。

◆ノープロブレム!!!

参加者が「僕の人生は問題があるんです」。問題の無い奴なんかいるか！ 皆、問題だらけだよ。ある人は「離婚して別れた子供に会えない」と気が狂いそうになっている。そしたら、他の場所じゃ子供が殺されてしまって本当に会えない。これも気が狂いそう。そうこうしているうちに、大雨で土砂崩れで数十人の安否が分からない。

この世の中は、そう考えると悲惨なこ

う人もいるけど、人間も劣等感がなかったら成長しないよ。

俺も劣等感のすごさにおいては人に負けないよ(笑)。ただ「劣等感によって人は成長するものである」という持論がある。自分が燃える劣等感とは心の宝物にする。自分が朽ちていく劣等感とは「忘却処分」にする。俺はそれで良いと思ってる。どうしようもないことは捨てるのも人間の能力。

ただ、よく「ポジティブ思考」とか言うのがいるけれども、何もかも自分の都

とだらけだ。お前の抱えている問題程度は世間じや叩き売りするほど有り余っていて、もはやレギユラーサイズだ。つまり普通だ。従って、お前の言う「プロブレム」なんて「ノープロブレム」だ。だいたい、問題があることが常にマイナスと考えるのがおかしいんだよ。顔が不細工なら内面を磨こうとするだろうし、俺の生まれた山形県の新庄なんて降雪がすくなくて不便だったからこそ、今でも自然豊かになつたんじゃないか。これが温暖な気候だったら、都会の連中がやってきてすぐに荒らされてしまふよ。

「貧乏が偉い」とまでは言わないけど、能力や己の背に合わない金を握って人生を誤ることを考えたら、「貧乏が自分を守ってくれている」ということもやっぱりある。劣等感を悪いように言う人もいるけど、人間も劣等感がなかったら成長しないよ。

合の良いように解釈するのがポジティブじゃないんだよ。

俺が思うポジティブっていうのは、逆境とか辛い出来事とか、そういうものを上達の機会と捉えて努力することだね。「よし上等だ！困難歓迎！」とね。そう考えると、人生にただ単に悪いことというのはない。何年悩んで苦しんだって、それが人生の空費ってことはないんだ。ただ単に「不幸だ」と捉えて萎れてしまふのは、ネガティブ思考というものだね。一人前に苦しんでみる。

◆護身術の空手 「打でなく触で倒す」

岸道場は一言で言えば「生き延びるための空手」だからね。今回の参加者達にも俺はそれを見せた。大山館長はこういう技をよく知っていた。「弾く技」というかね。試合では使えない技。俺はそれを見て感激したし、それがニューヨーク等での実戦でも通じたから、大会の空手



大地から草を引き抜く腕の捻り。これが正拳の引き拳の理。

には関心が無くなった。正直、俺が出た全部の大会、大山館長に強制されて出場した。「優勝したら飯がたくさん食えるかも」と妄想したことはある(笑)。

よく昔から「触れただけで人を倒す」と言い、「そんなのはウソだ」と人は言うよね。だけれども、何度も実戦をくり抜いたら、それが嘘でないことがわかる。

試合に使う空手では「引き拳を取って、タメを作って、相手の攻撃部位に直角に当てて相手の体の中心部に力を伝える」と言う。これは随分と余裕のある時の話。「相手はルールの範囲内の攻撃しかない」とって時の話。接近した間合いで引き拳なんか取っていたら相手にやられる。引き拳を取る間に相手に刃物で刺される。

今回、ニューヨークの彼らに教えたのは狐拳を軽く握ったもの、或いはもう手の甲、これを使う。手を下げたその位置から相手の金的を弾く、そして相手の鼻



岸空手説法「押しても駄目なら、押してやる！」 自分の命を生きる！ それが空手だ！



アニー・サンダレスク女史 かの大山倍達総裁の盟友ジャック・サンダレスク夫人

骨をそれで弾く、腕刀で相手の鼻骨をこすり上げる、金的に隙がなければ、まず鼻を狙う。その組み合わせ。相手が前に出てくる瞬間に相手の鼻を弾く、これが「出鼻をくしく」ってことだね。

拳を握り締めて引き拳取っていたらやられる。「叩く」じゃもう遅いんだ。だから「触れる」で倒す。至近距離から相手を弾く技、これが自分を助けるんだ。

闘いにおける前の手は触覚、これも触れる。「当てる」「押す」じゃあ、もう相手に力量と方向を読まれてしまうんだ。スペースが無くなって出せる技、これが本当の技だと俺は思うね。

「実戦空手と大会の競技の空手と戦ったらどっちが強いかな？」じゃなくて質が違ってしまうんだな。

俺は大会の技術の優劣をどうこういうつもりはないよ。俺は大会、駄目だったもんよ（笑）。大会では俺は早いうちに順番が無くなって会場の掃除をしていたんだ。「選手か掃除係かわからん」と自

分て思っていた（笑）。

得意技を徹底的に磨いておくことは大事、そして、それが出せない時に出せる次の技を磨いておくこと。これが本当の実力になる。

昔、大山館長から直接教わった技には、窮地に陥った時の技が多かった。けれども、トーナメントが中心になって、それを道場では教わることができなくなった。

簡単な所では「正拳下段突き」なんかもそうだね。至近距離から相手の金的を狙う。「下段貫手」とかね。元々の空手にある技をほとんど今は稽古しない。回し受けの呼吸法の最後にやる上下の貫手もその発想のもの。だけど、一回の稽古で二、三回息を吐く時に使う程度で、実戦の経験の無い先生が「相手の金的に差し込むんです」っていくら勇ましい願して説明しても使い物にならないよね。岸道場は大会のための稽古は絶対やらないから、こういう技に徹底して取り組んで

行きたい。

そして、技は小さなスペースで行えるようにする。「尺から寸」。基本稽古では一杯にタメを作って稽古することで技の力を蓄える。そしてそれを一寸のスペースに縮める。突き蹴りという攻撃技も横幅は70cmで行うのが俺の持論。これがだいたい人の横幅。90cmの横幅を目安にすると、相手にすり抜けられる。かわされる。俺が実戦空手において後ろ廻し蹴りよりも後ろ蹴りをはるかに好むのは、この70cmの幅で使える技だからだよ。

◆「掴むな」の意味

大山館長も組手の時には「掴むな、掛

ける」と言った。今の大会は概ね、掴まないルールでやっているんだろうけれども、大山館長が「掴むな」と言ったのは単なるルールの問題ではなく、「掴む」ということの危険性を言ったの。また掴み合いになれば、小さい者や体力の無いものは当然不利になる。

「掴まないことで打撃を強くする」とか「サッカーでは手を使わない」とかそういうことではないね。

掴まないことによって、空手の有利、空手の強さを保持するっていうこと。

掴めは自分の力の強さ、方向が相手に読まれてしまう。相手に触れずに、それらを読ませないのも空手の戦術のうち。「投げがある方が実戦的」って言って、



米国で岸信行が手渡した20年来の黒帯。



幻想の森の巨木に遊ぶアニー・サンタレスク女史。



幻想の森 桜の木と杉の木が幹で一体の如く絡み合う自然の技

相手を掴んで、体を合わせて、相手の足に絡めてという投げ方は随処で相手に投げ返される危険性が大きい。空手の投げは構えのまま相手と重なって、掛けたり、少し相手に触れる程度にして、足の動きで投げ倒す。自分の上体の動きで相手を横に倒すのではなくてね、足で掛け倒して、自分の真下にコントロールする。そうすれば、相手が反撃してきた場合にすぐに踏んづけたり、膝を落としたりして相手を極められるからね。ま、そういう技を今回のニューヨークの道場生達には見せた。

掴めば相手に力の方向を読まれてしまう。掴んで相手を引き回すなんていう動きは俺からしたら、もう空手の動きじゃないし、ルール内でお互いがそれを了解しているからやれる技。

◆円形運動

大山館長が言う「円形運動」というのは、概ね直線に見える円形運動でね、目

に見えて円を描いて左右に回り込むというものではなかったね。相手に向かって直線で行く、そして相手の行動に合わせて結果的に自然と円を描いたことになる動き。そういうものだった。

例えば、大きな公園や動物園へ行くとき回転ドアがあるよね。あれの回転する中心のシャフトに直線が入っていつてくっつけば自動的に円を描くよね。あんな感じ。

相手が左の直突きを突いてくれば、それに至近距離から外受けて入って行けば相手が突き切った時には自分は自然と概ね相手の後ろ側に出ている。それが「点を中心として円を描く」という考えだね。相手に真っ直ぐ入って後ろにすり抜けければ結果として円を描いたことになる。

そして正拳中段突き、前蹴りもすべて円形運動。肩の回転や腰と足の回転が蒸気機関車の車輪を押すスポークのように円を描いて最後に直線の形で突き込む。稽古すればするほど、大山館長がいかにかに空手というものを深く研究して真剣だった

たかわかる。

◆柔軟運動

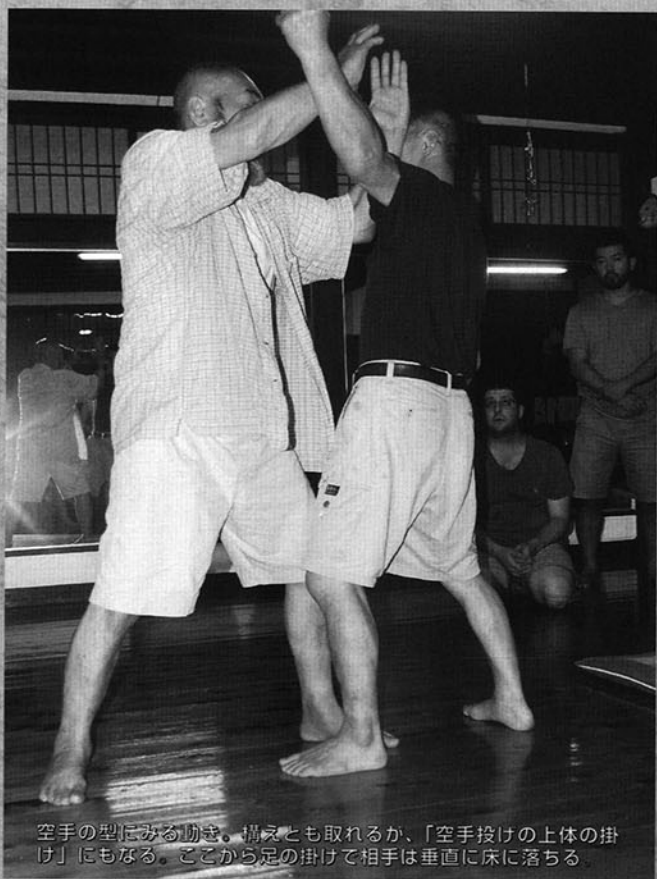
柔軟運動っていうと「ハイキックを蹴るため」と考える人が多いけど、それは違うね。実戦においては高い蹴りなんてむしろ危ないからやらない方が良く思う。でも下段蹴りしからぬいから柔軟運動はいらぬいかと言うとそれは違う。

柔軟運動は力の伝達のため、いくら下半身を鍛えても股関節が柔軟でなければ全体としての力に繋がらない。股関節他各部位の柔軟ができていないと、正拳中段突きも生きない。

俺はゴルフも野球も全く無縁の人間だけれども、股関節の回転、結局これでク



本間雅彦は岸信行の山の道場設営を支援するパーティをサプライズで開いていた。松村氏他、ニューヨークの武道家達が賛同、支援金を岸に贈呈



空手の型にみる動き。構えとも取れるが、「空手投げの上体の掛け」にもなる。ここから足の掛けて相手は垂直に床に落ちる。

ということ。

◆基本稽古という パワートレーニング

今、速く何十本も突いたり蹴ったりする基本稽古がほとんどだけれども、それは本当の空手の稽古だと思わないね。岸道場の基本稽古はゆっくりやるけれども本当はもっとゆっくりにやりたい。ま、大山館長の基本稽古は一撃、一撃がゆっくりだね、後には「時間ないから速くやれ」になったけれども、俺が内弟子時代に見た、館長の基本はまるで何か錘（おもり）を持ってウエイトトレーニングをやっているようだったね。

いろいろな技を素早く三十本ずつやっても、やっている本人もそれが強さに繋がっているという感覚はないと思う。精力の稽古か、流している感じ。だからそ

ういう生徒にとっては、サンドバッグを叩き、ウエイトトレーニングで筋肉を鍛えるあたりが突きの強さの稽古と捉えてしまう。それじゃ空手にはならない。

ジャック・サンダレスクさんは元々プロボクサーでもあって強かったけれども、それでも「大山館長と稽古してもっと強くなったと感じた」と言っていた。数千回基本をやったということも言っていた。何千回になると腕が痺れて重くなってくる。その時に繰り返すことが本当に突きに力を与えるというのが大山館長の考えだったね。やっぱり、突きは突きそのものの稽古で威力を養う、というのが原則だった。だから、バーベルで付けた力で押し切るような戦い方は本当は好きではなかったね。それを「他力本願」と言ったわけだ。

だけれどもね、このゆっくりやる稽古というのは実は疲れもするしだるくはな

ラブやバットを振り回して、ゴルフボールを遠くに飛ばしたり、ホームランを打つわけだからね。別に足を高く上げていくわけじゃない。だけど、腰の回転が硬くちや力は発揮できない。

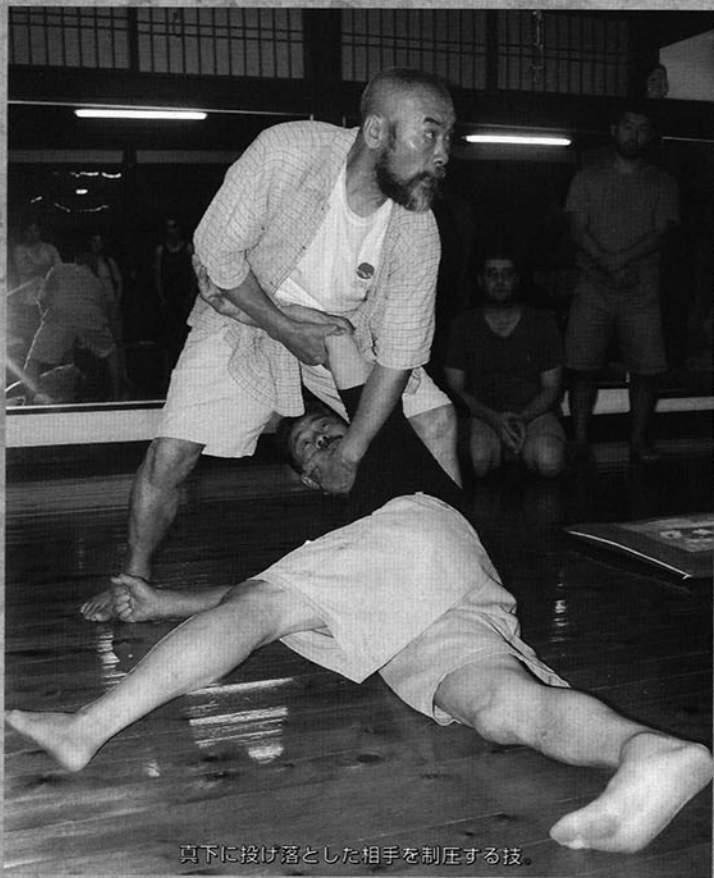
簡単なことだけれど、見落としがち。どれほど体の各部位の筋肉を鍛えても、連結部分が錆びついていたら活かせない。

◆戦いの形

最近では「現代風の戦い方」と言っていて、腰の高いアップライトの形を取る人がいるけれども、何も現代風にする必要はないね。何で、空手が重心を落とすかと言ったと、躰下丹田、気海丹田の気の力を全身の筋力と繋ぐためだね、そこで所謂「気の力」というものが出てくる。これは俺の体験では油圧式シリンドラーとか圧力を利用した動力だね、別に「指の先から不思議なエネルギーが」という

ような話ではないね。これを利用するのは最初は腰を落とす。そこで筋力だけではないパワーというものが出てくる。修煉を積めば、そんなに腰を落とさなくてもこの力は使えるようになるけれども、そういういった人の外観を見て、最初から重心を高くしても駄目。相手の戦い方に合わせるのではなくて、自分が空手の戦い方をして、相手を引き込むという考え方をする。腰の高い戦い方をする人にとって空手の構えを取る相手は逆に戦いにくいからね。それを表面のことに合わせて、空手が空手の力を失って行くというの怖いことだよ。

ニューヨークで、空手を求めているアメリカ人がある有名な道場に見学に行ったら、選手出身の先生がキックボクシングみたいなコンビネーションをやっていたので、「これは求めているものとは違う」と思ってしまったという。これはね、その先生が強いかどうかではなく、空手の源流を保っているものではない



真下に投げ落としした相手を制圧する技。

るけど、息は切れないんだね。だから体力の無い人でも老人でもできる。
息が切れるというのは、実は体の各部のバランスが取れていないということ、どこかが引きずられているんだね。だから「ハア、ハア」となる。こういう「ハア、ハア」する稽古はそれをやる道場生の体が納得していないし、息があがるから、多くは道場生が稽古が嫌になってやめる原因にもなる。

う。
同じことだね、家の中で物が散乱して汚い、という人がいるよね。これは皆この人がぐうたらでだらしないと見るよね。俺は「この人は何かでものすこく精神が焦っている」と見る。その精神の焦りの速さに心や他の感性がついていかななんだね。だから生活全体としては乱れる。
だから、ゴミ屋敷の主が「そのゴミを捨てたら困る」と怒るのは、周囲から見たら異常でも、この人にはまだ

「それが捨てて良いものかどうか？」の判断がついてないんだ。
また「量より質」というけれども、やはり、稽古というものは、最初は「時間」であり、「量」を稼いで質が向上するものだと思う。肝心なのは、心を強くして自分をコントロールしないと、「質」どころか「雑」になることだね。

◆技と人間

ニューヨークから来る本間の道場生だけでも、3年で数十名にはなる。もちろん、俺は技も教えるけれどもね。でも技なんて、ただいくつ覚えても駄目なんだ。結局、やる時にやれる人間になることが大事なんだ。緊急時、せっぱつまってやれるかどうか。
「試合では強いが、憎しみや怒りが伴う喧嘩はできない」という人はいくらもいる。

相手も必死で、殺意がある。それはやはり非常事態だね。いくら技を知っていても使えない人は使えない。そういう神経のやりとりを含めて空手なんだ。

空手は、技は先生があげるものではなくて、本人の中から引き出すものなんだ。だから、俺が山形でやる空手の稽古は「お前にはお前の空手があるんだ。お前には他人に負けないお前だけの強さがあるんだ」、それをわかってもらう稽古。それがまた「本当の自信」ってことだ。それはおじいちゃんでもおばあちゃんでも一緒。「私、空手に向いていません」って馬鹿ぬかすな。お前、心臓動いて、息して

るじゃないか。空手はそれと一緒に。体内にある能力だ。他人の真似しようとするからおかしくなるんだ。

◆便利さに負けない

鬱っていうのは「輸入病」だね。西欧式の生活が入って来たことで失われた生活様式、これを取り戻せば鬱は消えるだろうね。精神の脆弱な男を鍛えるために剣術の道場や寺に預けるといことは昔からあったことだけれども、本題の修行に入る前に雑巾での拭き掃除をしているうちに治ってしまったという話はよくある。腰を落として拭き掃除をして、腰を落として薪を割り、腰を落ち着けて文字



左、ジャック・サンタレスク氏と右、岸信行。まるで親子のようだった。



岸信行と右、アニー・サンタレスク女史。

を書き、腰を落として大便する。こういうことは全て生活の西欧化で失われてしまったこと。現代の生活は見かけの速度に合わせて上滑りになり、本当の道の進め方を失っている。腰を落とし、スピードを落とすとして、じっくりと肚で物を観る、そういうことが求められているね。空手もまた同じこと。洋式トイレ、モップ、ガス、電気、便利だよな。お金も。俺もそれを使わないということはない。だけれども、使い方を誤ると人間の力を削いでしまうところがあるのも事実だ。まず生活においての西洋化というのは、日本

懐中電灯だって足元をしつかり照らせば問題ないわけだけれど、そこが人間の弱さで、遠くも見えなくなると遠くを見えなくなる。俺は極真会館の内弟子になった頃から後ろ蹴りはよく使った。組手の相手が「岸！ 後ろ蹴りは無し！」と言っくらくら、俺には使いやすかった。それは何故かという、昔の山形の雪道や雨でぬかるんだ土の道を、荷物を山ほど積んだりヤカーを弟の靖徳と毎日毎日、足で後ろに蹴って引いて農作業していたから。人間一人の力じゃ、どうにも

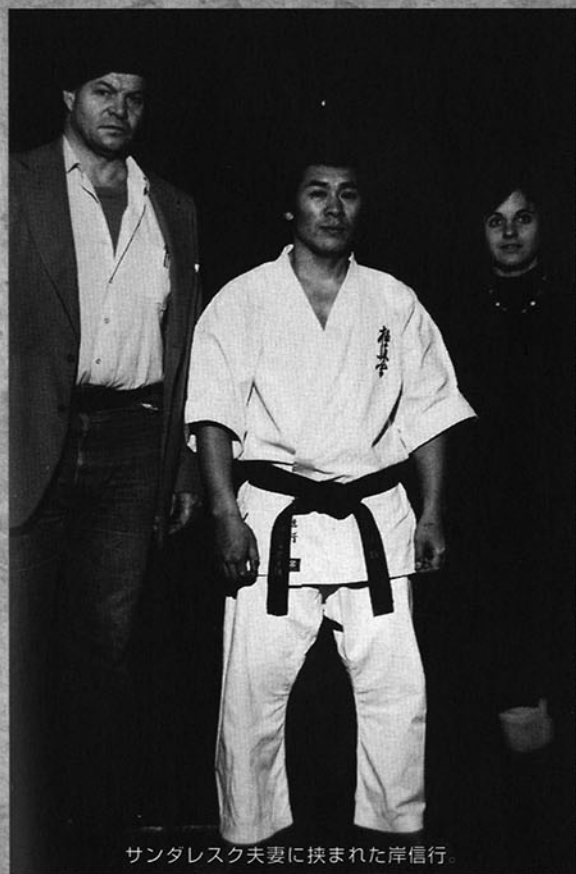
人から腰の強さと肚の据わり具合を奪った。「肚が据わらない」、腑抜けということ。「腰が据わらない」、腰抜けということ。結局、物事の判断が頭だけに依存してしまう。結果、鬱にもなる。今回の合宿も、山の道場で「少し懐中電灯を使うことを控えろ」と言った。懐中電灯は遠くが見えすぎて危ないんだ。昔は提灯を使ってたわけだね。ところが今は懐中電灯。あんまり遠くも良く見えるもんだから、足元が疎かになる。提灯だと足元しか見えないから、足元をしつかり見ることができ

前へ進めない。と言って牛や馬が曳けるような道じゃない。弟の靖徳が後ろから必死で押す力のタイミングに合わせて、リヤカーを引く俺が足で後ろに蹴り出して前に進む。それが、俺がアメリカでも空手で生き抜く武器になった。便利なことでお年寄りや病人が助かり、仕事が素早く進むことは本場に有難いことだね。だけれども、人間を鍛えるという過程においては便利さに負けてはいけないことも事実なんだね。金も同じ、始末して適切に使えば本場に有難いもの。求め方使い方を誤ったら本場に怖い。また、人間というのは、情報に弱い。日本の昔の戦においても忍者がいろいろなデマをまいたらしい。「誰々という武将が討たれた」とかね。社会やマスコミ、世の中に当たり前のように流れているものが正しいかと言えば、そうでなくてね。随分と嘘が溢れている。これは昔からそう。歴史で信じられていることというのは、武道の目で見れば随分と腑に落ちないことが多い。だから、高度な情報社会が発達した時こそ、鍛えておかなければならないのが、人間

の「原始力」なんだな。法律もそう。いつも守れば正しい結果が得られるかというところでいい。また法律というのは、時流に従って変遷しているのが当然。そういうことも見抜いて、自分のやるべきことを行うのが武道を学んで行く者の姿勢だ。過去の規則や形にしばられて、目の前の人助けもできない。それじゃいけない。全て自分自身の人間の判断でやるんだ。空手家は「クリエーター」、「自由な芸術家」なんだ。

◆人生を治す道場

俺はね、岸空手を代表する強い選手とか、そういうものはいらないんだ。俺は、人生に悩んで、自分自身が情けなくて、惨めで仕方がない。そういう人達の踏み台になってやりたいと思ってるんだ。俺は材木の廃材を頂いて新しい山の道場を作った。出番、舞台、役割が変われば廃材も一流の働きをする。天がこの世に生み出した人に一人だって廃材はいやしない。自分を生きること認められたただ一人の自分なんだ。



サンタレスク夫妻に挟まれた岸信行。

月刊

フルコンタクト KARATE

2015
No.337
FIGHTING
SPIRITS
MAGAZINE

3
MARCH

極真館城南品川支部

王者を育てる “城南稽古”

共に勝つ空手
～無限勇進会の選手育成術～

定価 780 YEN